

## 「知られている」という安心感

詩篇 139 篇 1～6



レーナ・マリヤさん

主よ。あなたはわたしを探り、私を知っておられます。  
あなたこそ私のすわるのも、立つのも知っておられ、  
私の思いを遠くから読み取られます。  
あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道を  
ことごとく知っておられます。  
ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそ  
れをことごとく知っておられます。  
あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の  
上に置かれました。  
そのような知識は私にとってあまりにも不思議、あまり  
にも高く、及びもつきません。

詩篇 139 : 1～6

「私」を知っている神がおられる。

あなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられた。私の骨組みはあなたに  
隠れてはいませんでした。あなたの目は胎児の私を見られた。

偶然に生まれて来たのではない。神の意志がそこにあった。

「あがめる」・・・高く上げる／大きくする（拡大する）

様々な心配や不安な出来事が心を大きく支配するその場から「神をあがめる」

「神が私を知っている」というのは、人格的な愛情をもって「私」に関わって  
おられるという事。私が、どんなことを考え、何に悩み、何を願っているか知っている。

【汎神論】（神がみなぎる）

月・星・太陽・海・空・山など、自然の全てに神が宿っている。八百万（やおよろず）  
の神を神として崇める。様々な霊の存在を信じ、迷信を受け入れる。

【汎神論の神観】

悪いことが起こると、その原因は自らにある（因果応報）と考えて、呪いやたたりを  
恐れて神社に参拝、厄払いをする。恐れが心に刷り込まれ、神々のもとへ走らせる。

## 聖書の真髄は「神は愛なり」

「神の愛の現れ」は、御子イエスキリストの十字架の死による罪からの救い、解放。

### 「箴言」は知恵文学

古代からの、神の民に受け継がれてきた知恵が集められている

日々、生きていく中で遭遇する様々な問題や困難に、どう応じて生きれば神の祝福に与ることができるのかを伝えている。

一人の人の経験から得た知恵ではなく、共同体の中で見出され、共同体の財産として受け継ぎ、語り伝えられてきた。

心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。 箴言 3 : 5、6

「知恵」……「恵み」を「知る」

「恵み」……値なしに受ける愛なる神からの祝福。

恵みを知るとは、イエスキリストを知ることにつながる。

十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。

それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする。」

知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。

神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。

事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。

I コリント 1 : 18 ~ 21